

414  
A4455



覺音第五十二号

予々曾テ閣下ニ建言シタリシ事件ニ関シ前予因  
々ノ告知ヲ得タリ且テ之ヲ速ニ閣下ニ上告スルハ予  
ノ職分ナリト思惟スルナリ  
デヨン・ピットニシハデヤバン・メイル号新聞所者白ク  
代トシテ予ニ告テ云クダアリヌ、ゲト、ホウエ、ル氏ハ定  
々約ソ四週日以内ニ政洲へ回旋センイヲ圖ルニ因リ  
其所有セル新聞ノ社業ヲ急速他ニ譲ラシイヲ希ヘリ  
ト彼又々云フ此新聞紙ヲ一萬五千圓ノ價ヲ以テ譲リ  
典ヘンイヲ予ニ談スヘキ旨ヲ命セラレタリ其云フ所  
ノ譲渡ノ仕様等ハ閣下ニ詳教スルモ不<sub>レ</sub>要ニ爲ス  
此新聞紙ノ譲受ハ予ニ於テハ<sub>レ</sub>ニ意ナシ

大正十一年四月  
大隈侯爵邸守  
贈

162  
A4455



雖モ曾覺書四十二号ニ日本政

ノ利益

ヲ

固ナル一ノ廣告具

新聞紙

ヲ設立アラシメテ陳述セ

テアル

四十二号覺書

第一因リ此件或ハ閣下ノ意ニ適

スヘキヲ以テ之ヲ上告スルノ機會ヲ失フヲ欲セス因

テピットニシテハ未タ其確答ヲササ、リシナリ

ホウエシ氏カ此新聞社所有ノ權ト其ノ事務管理ト

止メント決セシメハ相違アルニシク而シテ其ノ一万

五千ドルノ請求ハ相マ過大ナラシテ此金額ヲ減少セ

シムルハ敢テ疑ヒナカルヘシ而シテ此件ニ付テハ予

尚オ考ヘシテアリ社ニ於テ一年得ル所ノ利益一万

六千ドル也而シテ此ノ金額ノ相違ナキハ彼ノ保

得ヘシト云ヘリ因テ今ニ適宜ノ人ヲ擇ンテ帳簿ト計

算トノ精査ヲ行ハ、被カ云フ所ノ實否ヲ檢シ得ン

容易ナルヘシ彼レカ云フ所ヲ以テ果シテ實ナリトモ

ハ此新聞社業讓受ハ敢テ徒費ニ非ルヘク却テ理財上

有益ナリトモ云フヘシ尤、ハウエル氏ハ其云フ所常

ニ及履スルヲ以テ此事實ヲ調査スルハ肝要ナリ其譯

ハ全氏平生メケル新聞社ノ損失ノ高ヲ言々自己ノ私

金ヲ以テ償補セルト一年久シト云ヘリシテ一度

ラス然レ氏此ノ言ハ或ハ彼レ實地ノ景況ヲ押シ隠シ

世ノ助カヲ得シタメニ收納ノ多キヲ知ラセサリ

知ルヘカラス

今今人ノ云フ處ニ據レハ昨年政府ヨリ六千ドルヲ得

シ故ニ利益ノ高二万二千ニ及ヒタリト

閣下ニオイトテ眞實ノ景況ヲ知ラシムル欲、五ハ、答

易スリ査問ヲ遂ケヘシ而シテ此ノ査問ハ、ク

身

為ニスル物ノ如クスヘレ政府ノ此ノ新  
一ノ適當不適當ハ其ノ査問ノ結局如何ニナルヘレ  
買受ノ一弥ヨ決定ニ至ル片ハ新規ノ所有者ニ於テ此  
ノ事務ヲ經理スルノ法ヲ考エサルヘカノス且ノ予ノ  
觀ル所ニテハ政府カ此ノ讓受ノ事ニ関セル一ハ當分ノ  
内ナリトモ世上ニ發露セサルヲ以テ妙トスヘレ事務  
經理スルノ方法ニ至テハ之ニ關係スル人々ノ尤モ適  
宜ト定ル所ニ從フヲ得ヘレ  
編集事務ヲ托スヘキ人ハ予唯一名ヲ知レ新聞記者タ  
ル經驗ニ於テモ文ニキノ才能ニ於テモ日本國ノ要スル  
記述ノ体ヲ通知セル一ニ於 又當國ノ進歩ヲ希望スル情  
願ノ深キ一ニ於テモ極メテ此ノ任ニ適合セルハハエウチハウス  
ズヲ推スヘレ全人ノ書記セル所ノ物ハ既閣下ノ粗知ル所ト

ナリト云ハ信スルナリ閣下之ヲ可ナリトレ玉ハ予速カ  
ニ之ヲ全氏ニ詢ルヘレ思フニ全氏ヲ許諾セレメン  
一難カルヤレ予ハ全氏ノ情ハ當ニ日本ノ國益ノタメニ  
尽カスルヲ知レカ故ニ此事ニ於テモ決メテ不諾アルマ  
レト思惟スルナリ  
同氏ヲ職ニ就カシムルタメニ如何ナル約ヲ結フヘキカニ云フテ  
予未タ其割合ノ利益ヲ十分ヲ分與スルヲ良トスヘレ譬ハ八月  
給ノ外利益總額ノ百分ノ三十七ヲ與フルカ如レ此ノ方法  
ハハ全氏ノ得ル所僅少ナラサルニ因リ月給ハ予カ下文ニ  
述フル処ノ概算ヨリモ稍ヤ少ナキ金額ニ定メ得ヘレ  
譬ハ一月二百トル乃至二百五十トルヲ與フルカ知レ  
凡ソ附屬ノエ人ヲシテ其躬直チニ其ノ職ノ成ルニ  
何ニ相関セシノ以テ其勉強力 揮発スル

ニ於テ大ニ益アリトス。モ予カ令  
所ノ人ノ如キハ自餘ノ人ノ如ク業ヲ勸ムル  
ノ配意ヲ惡セサルハ予カ從來深ク知リ得ル所也  
此外尚ホ一事アリ閣下ニ告ルトス若シ政府ニ於テ實際  
此社ニ合体シ且チニ関與スレバ嫌ハ一般ノ人民中  
恐ラクハ華族ノ中チ私金ヲ正當ニ貸シ付ンテ欲  
ル者多カラシ是等ノ人此ノ新聞社業買受ノ為ニ一  
種ノ貯金集合ノ社ヲ結ハントスル者アラシ果シ行ハ  
此ノ新聞ヲ政府ニテ管轄スルニ足ル程ノ金ヲモ安セ  
ス又夕所有者ハ改ニ非スレテ一般ノ人民タル華族  
或ハ貴人ナル故一層事業ノ維廣ノ日本語合同ノ著述  
ノモナスヘリ且ツ恰カモ英語ヲ以テ著述スント全條ナル氣象  
ヲ以テ印行スル如キ有益ナル成績ヲモ生ヌ、シ

ホウニ氏ハ急ニ出奔セント欲セル故此後速ニ決議  
アリタキ皆全人ノ代理者深ク予ニ依頼セリ而シテ彼  
等ハ予カ私ニ買受ルモ見成セル故回答ハ遅延ハ  
唯予カ一已ノ決ハタノ時日ヲ要スントノニ認ムヘ  
シハタノ尚ホ更ラ成否ノ決答ヲ不日ニ為サハルヲ  
得サルナリ謹言

東京ニテ

千八百七十六年三月五日 李 仙 得

大隈重信閣下

大正

李仙澤の四回を案

大正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈

貴下五十二号の真書紙の譲渡一件  
 申立の取洋巻せり予に於かても久し  
 其必要を知らざるを以て政府の利益を謀  
 廣告具を設きたるの企むを以て邦を既  
 貴下より通る彼の社實他の景況を以  
 知らば即今至急に要領を以て改貴下速に  
 着手し極低の價値を以て真書紙の計算を  
 せ精査し報告せしむるを以て上総省の  
 回答致せるを以て波の流佳者人

予、旅下し全く異俗にありしに  
大隈三三

本心は下し

明治二十二年

